

常陸大宮駅の進展見学



まち歩きを楽しむ参加者＝常陸大宮市南町の常陸大宮駅前

市民ら歩いて事業体感

常陸大宮市が整備を進めるJR水郡線常陸大宮駅周辺について関心を深めてもらおうと、同市内で11日、市民参加のまち歩きイベントが開かれた。中心商店街の後継者でつくるNPO法人「あきない組」、近くの志村大宮病院、まちづくり提案を行うリリー文化学園の専門学校「文化デザイン学院」（水戸市）の3者が主催し、親子連れなど約30人が参加した。

2年後の完成予定で同駅の駅舎や東西自由通路が新築されるのに伴い、同市は周辺道路や駅西交流拠点などの大規模な整備計画を進めている。今回、街並み整備が始まった駅周辺の様子を歩いて体感してもらい、同校と連携協定を結ぶ市の担当者が、計画の概要を説

明し、将来像を示した。

午前7時にスタートし、2グループに分かれた約30人が、約1・5キロの駅周辺のまち歩きコースを約1時間かけてゆっくり散策。途中で、同病院が設置する市民向けの自由スペース「みんなの休憩室」、あきない組事務所、駅西交流拠点計画地に立ち寄り、市職員らからヘルスロードや交流拠点についての計画説明や、駅周辺の昭和時代の写真展示などを見て回った。

市内から娘の凜さん（9）、息子の颯介君（7）と参加した小口由美さん（43）は「駅周辺が広々と整備されると聞き、楽しみになった。繁華街だった駅周辺の昔と今を子どもたちにも知ってほしかった」と話した。

（高畠和弘）